

不登校生徒の学習等への支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、集団の中で授業を受けることが苦手である。しかし、個別に登校して学習したいという気持ちがある。また、友達と関わりたい気持ちを持ち、自分の居場所を学校の中で築くことを求めている。

具体的な取組

○個別指導

火・水・金の午前中に教室以外の場所で個別指導教室を設置し、組織的に指導に当たっている。遅れが見られる学習内容の定着やコミュニケーション能力の向上を目的とし、丁寧な個別での対応に取り組んでいる。

○支援会議

月2～4回、加配教員が中心となって支援会議を開催している。会議では、加配教員や各学年の教員以外にも、SCや生活指導主任、養護教諭、特別支援コーディネーター、管理職と情報共有を行っている。支援計画を検討・決定するとともに進捗状況を管理し、報告している。

○SSWとの連携

家庭訪問や面談の際、多面的な支援ができるよう、SSWが同席できるようにしている。支援の経験が少ない教員のフォローにもなっている。



○情報のデータ化

不登校生徒に関する情報をデータ化し、全教職員が確認できるようにしている。情報を共有することにより、一人一人の生徒に合わせた支援を行っている。

成果

当該生徒は、友達と関わりたい気持ちや帰属意識が芽生えた。行事では、応援席で参加することができた生徒もいた。個別指導教室の設定曜日を変えたことにより、生徒の登校機会が増加し、適切な支援を講じることができた。居場所を作ることで、不登校の未然防止や不登校の減少にもつながっている。

課題

個別指導教室では、更なる人材確保の方法が必要である。また、小学校段階から不登校であった生徒が中学入学後も不登校になる傾向もある。